

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
基礎看護学実習 I	NSP24_001	必修	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小石川 好美 他	403	yoshimi.koishikawa	月～金曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	看護が提供されている医療の現場を通して、健康問題を抱えている看護の対象および看護の役割・機能、療養環境を理解する。また、対象者とコミュニケーションをとり、援助的人間関係を構築し、日常生活援助技術の一部を実施することで、看護職者としての基礎的能力を養う。				
学習上の助言	・看護体験演習における看護実践の場と看護の対象についての学びの振り返りをしてください。 ・病院実習では、看護援助方法論 I～IIIでのコミュニケーション、日常生活援助の学びの実践を見学し、またヘルスアセスメントで学んだバイタルサイン測定の実施、報告する。各自が看護援助方法論の演習において作成した手順を再確認し実習に持参する。				
教科書	基礎看護学領域で用いた教科書を適宜活用する。				
参考書	必要に応じて適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	対象者の病床環境を安全・安楽に生活できるように整えることができる。		NS(1)(2)(3)		
②	対象者とコミュニケーションを図り、対象者の状況や思いを理解しし、説明できる。		NS(1)(2)		
③	対象者の療養生活を支える家族及び家庭の機能・地域環境を理解し説明することができる。		NS(1)(2)(3)(4)		
④	看護の機能と役割について理解し説明することができる。		NS(1)(4)		
⑤	対象者に必要な日常生活援助（環境調整、清潔・衣生活の援助）を見学及び一部実施することができる。		NS(2)(3)		
⑥	看護専門職者の一員としての基本的態度を養い、行動することができる。		NS(1)(5)		
授 業 計 画					
1. 実習の時期・期間 2年次前期（6月）に、各グループ6～7人で、1週間（5日間）の実習を行う。					
2. 実習場所 病院病棟					
3. 実習の具体的内容 1) 対象者とコミュニケーションを図り、対象者の状況・思いを理解する。 2) 温度計・室温計・騒音計等の計測器を用いて、対象者の療養環境を観察する。 3) 環境整備を実施し対象者の療養環境を整える。 4) 看護師に同行し対象者への看護活動の見学や看護師とともに日常生活援助の一部を実施する。 5) バイタルサインを測定し患者の健康状態を観察する。					
4. 実習の展開					
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	病棟実習 病院・病棟オリエンテーション	病棟実習	病棟実習	病棟実習 実習のまとめ	実習のまとめ（学内） レポート作成
5. 実習最終日の実習のまとめ 病棟実習最終日に行う「実習のまとめ」の話し合いをもとに、気づき・学びが深まったことを整理する。それをもとに「まとめのレポート」課題に取り組む。					
6. 実習記録の最終提出 各個人で自己評価表、まとめのレポート、実習最終日のまとめ記録、病棟・病室の環境理解記録、対象理解のための患者情報記録、日々の実習記録を提出する。 詳細については、実習オリエンテーション時に説明する。					
学習課題・学習時間（時間）					
1. 実習オリエンテーション(1.5時間×3≒4.5時間) 1) 実習前の時間を確保し、計3回、実習の位置づけ・実習目的・目標・具体的行動目標・倫理等について説明を行う。 2) 実習の具体的内容や記録物、実習に向けての態度・心構え等について説明を行う。					

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

2. 事前学習(4.5時間) 実習目的・目標を達成するために必要な事前課題を提示する。看護学概論・看護援助方法論 I～V・ヘルスアセスメントの知識を整理する。また、実習に必要な技術の練習を行う。							
3. 病棟・病室の環境理解記録、対象理解のための患者情報記録、日々の実習記録(5時間) 日々の実習終了後、学び、考えたことをまとめる。							
4. 実習のまとめのレポート(6時間) 全ての実習終了後、看護学概論の授業に結びつけて考察し、自分の考えをレポートにまとめ 必要時間： 20時間							
達成度評価							
総合評価割合（%）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	20	0	80	0	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	20	0	20
	思考・推論・創造する力	0	15	0	10	0	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	10	0	10
	発表・表現伝達する力	0	5	0	10	0	15
	コミュニケーション力	0	0	0	10	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	15	0	15
		0	0	0	5	0	5
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標		評価の実施方法及び注意点				
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	実習のまとめのレポートとして、実習終了後にレポートを提出する。テーマ及び字数等の様式など詳細については、実習オリエンテーション時に配付する実習要項を用いて説明を行う。			た内容を確認し、課題等についてコメントする。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①	✓	実習の行動目標の到達度を実習評価表の評価項目に沿って評価する。 知識・技術力、思考・推論・創造する力は実習中の行動および実習記録で評価する。 実習における態度については総合的に評価する。			実習中に行動・記録を確認しフィードバックを行う。 実習最終日に自己評価表を用いた面接で評価する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	山崎さやか、岩淵正博						
教 員 の 実 務 経 験	科目責任者は、看護師として40年の臨床経験を有し、臨床実践と学問的な知識、技術を併せて教授する						
実 践 的 授 業 の 内 容	各担当教員が看護師としての臨床経験をもとに、学生が倫理的な判断をするための基礎的能力を養えるよう実習指導を行う。						
そ の 他	今後の状況等、社会情勢によってはシラバス変更があり得る。						